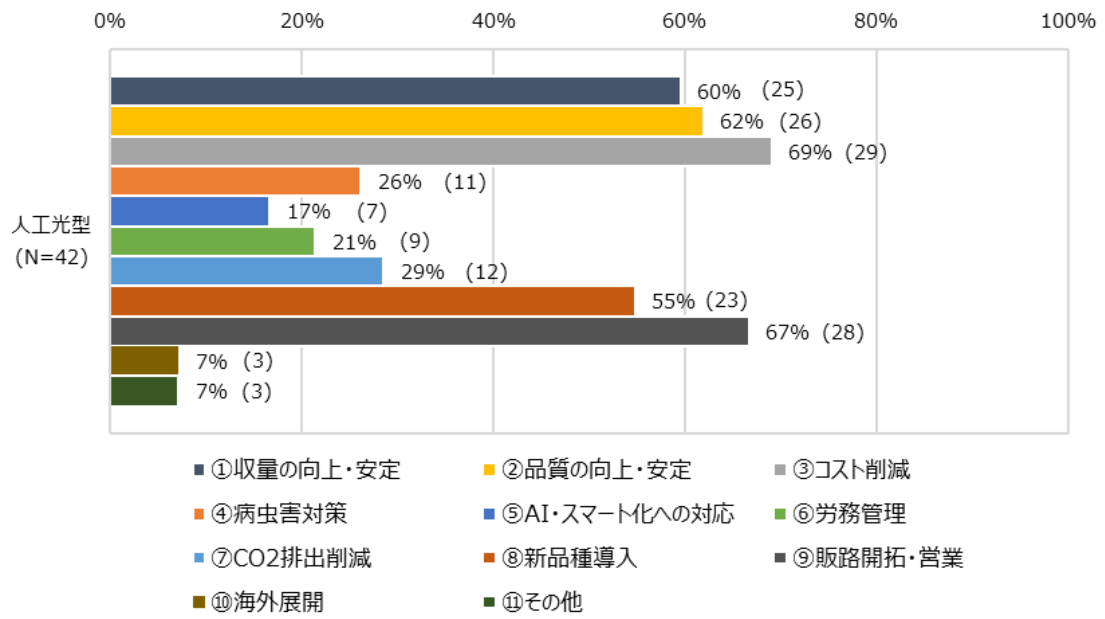


図表 54 生産・経営上の課題と対策・工夫（太陽光型・併用型）  
\* 複数回答を含む



図表 55 生産・経営上の課題と対策・工夫（人工光型）

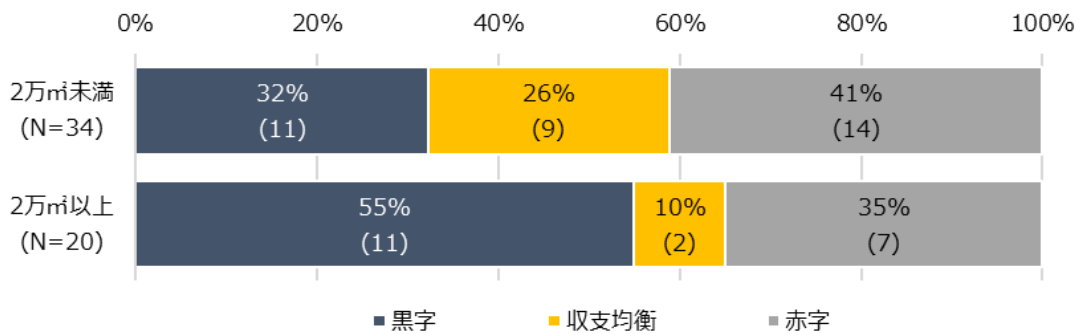
\* 複数回答を含む

#### ④ 栽培実面積別決算

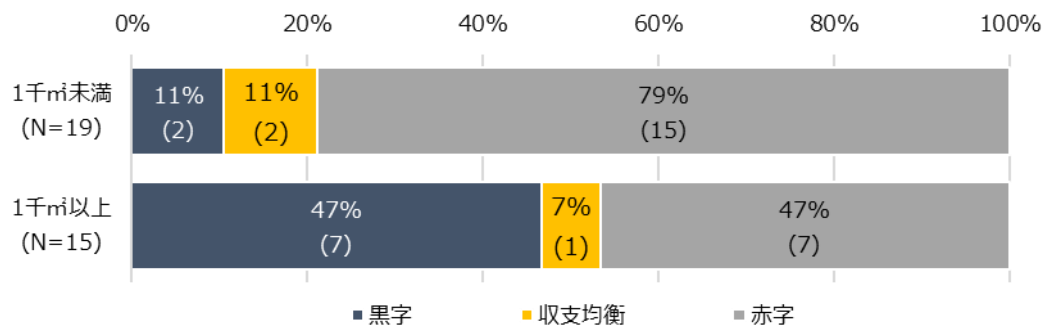
栽培実面積（主要品目）ごとに収支状況を見ると、太陽光型でも人工光型でも栽培実面積が大きいほど黒字・収支均衡の割合が高くなる傾向にあることがわかる。

太陽光型で2万㎡以上の面積がありながら赤字としている事業者は、面積に比例して設備投資額も大きくなることから、減価償却費の負担も影響していると推測される。

人工光型で1,000㎡以上の面積がありながら赤字としている事業者7件の栽培開始年には幅があり、本調査の結果のみから因果を推測することは難しい。



図表 56 栽培実面積別決算（太陽光型）

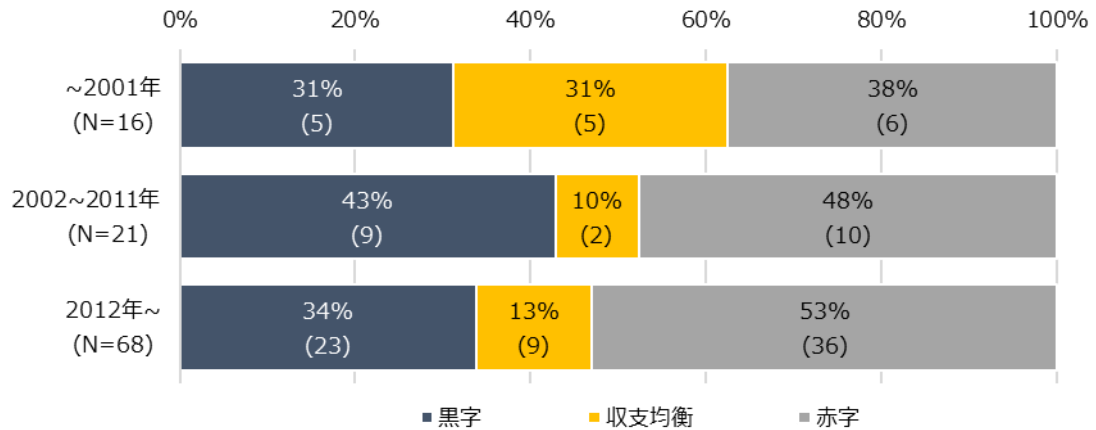


図表 57 栽培実面積別決算（人工光型）

### ⑤ 栽培開始年別決算

施設の決算状況を栽培開始年ごとにみると、黒字化している施設の割合は、2001 年以前から栽培を開始した施設では 31%、2002～2011 年に栽培開始した施設では 43%となっている。一方で、2012 年以降に栽培を開始した施設では、黒字化している施設の割合は 34%にとどまり、赤字の割合が 53%となっている。

2012 年以降に栽培開始した施設と比較して、2011 年以前から栽培している施設は、赤字施設の割合が低く、生産の安定化が影響していることが推測される。



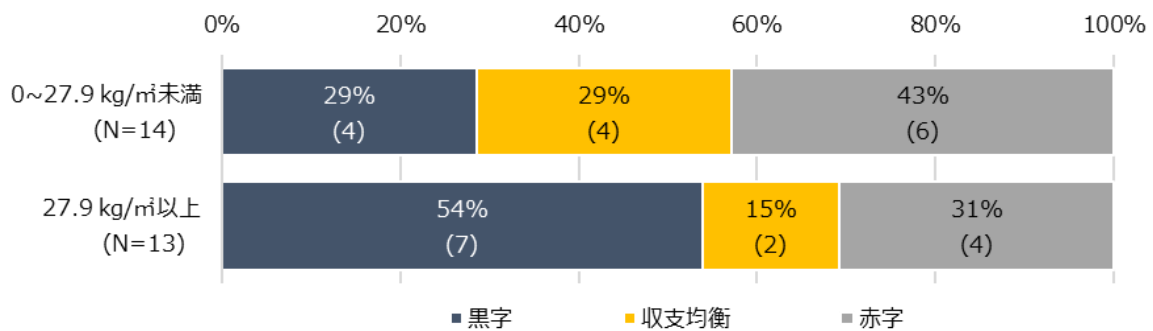
図表 58 栽培開始年別決算（全体）

## ⑥ 単収別決算

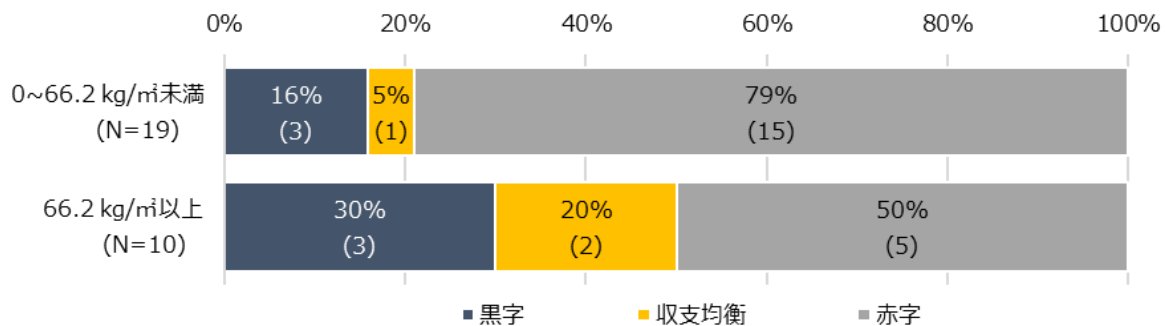
下図は、太陽光型の大玉トマト栽培及び人工光型レタス類栽培において、単収別の決算を示したものである。それぞれ回答者の平均単収（太陽光型トマト： $27.9 \text{ kg/m}^2$ 、人工光型レタス： $66.2 \text{ kg/m}^2$ ）を境に、単収の大きいグループと小さいグループとに分けて決算を集計した。

サンプル数が少ないため参考値ではあるが、単収の大きいグループの方が黒字とする割合が高い。トマトでは、 $27.9 \text{ kg/m}^2$ 以上の事業者の54%が黒字である。

また、レタス類では、トマトと同様に単収の大きいグループのほうが黒字とする割合が若干高く、赤字は50%と、 $66.2 \text{ kg/m}^2$ 未満の79%と比較すると少ない。



図表 59 単収別決算（太陽光型・大玉トマト）



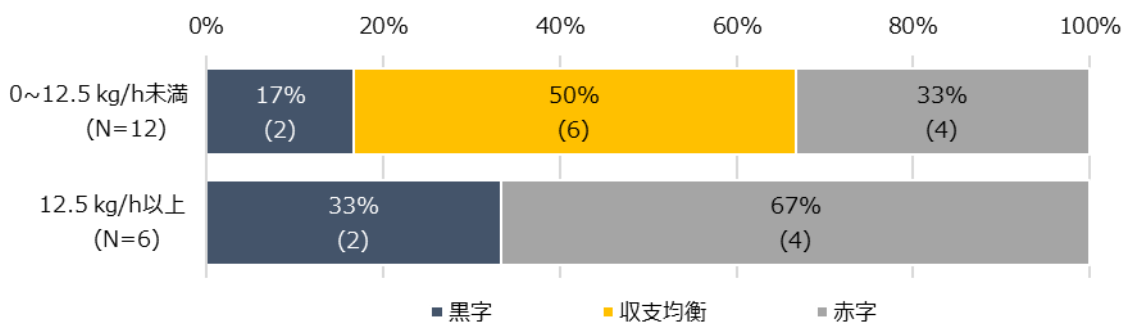
図表 60 単収別決算（人工光型・レタス類（ベビーリーフを除く））

### ⑦ 労働時間当たり収量別決算

太陽光型大玉トマト栽培及び人工光型レタス類栽培（ベビーリーフを除く）について、労働時間当たり収量別の決算を示した。それぞれ労働時間 1 時間当たり収量の平均（太陽光型大玉トマト：12.5 kg/時間、人工光型レタス類（ベビーリーフを除く）：5.4 kg/時間）を境に、労働時間当たり収量の大きいグループと小さいグループとに分けて決算を集計した。

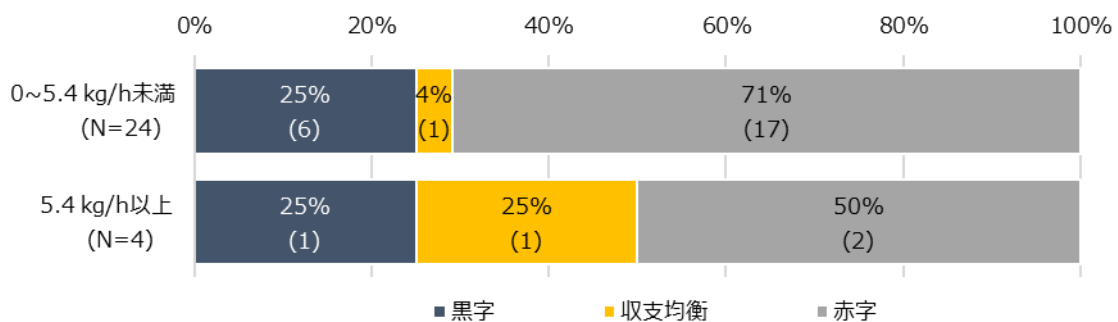
サンプル数が少ないため参考値ではあるが、労働時間当たり収量が大きいグループの方が、黒字とする割合が高い。

なお、太陽光型大玉トマト栽培については、決算別に労働時間 1 時間当たり収量の平均をみると、黒字事業者で 10 kg/時間、収支均衡事業者で 7.7 kg/時間、赤字事業者で 17.4 kg/時間であった。



図表 61 労働時間当たり収量別決算（太陽光型・大玉トマト）

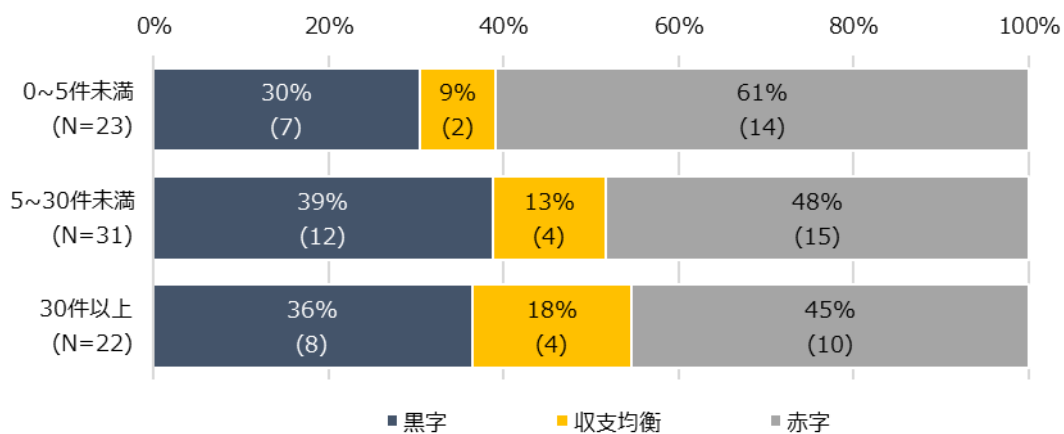
また、人工光型レタス栽培（ベビーリーフを除く）について、決算別に労働時間 1 時間当たり生産量の平均をみると、黒字で 3.4 kg/時間、収支均衡事業者で 7.5 kg/時間、赤字事業者で 6.1 kg/時間であった。



図表 62 労働時間当たり収量別決算（人工光型・レタス類（ベビーリーフを除く））

### ⑧ 取引先件数別決算

取引先件数が5件未満で少ないと、黒字とする事業者が少なく、赤字とする事業者が多い傾向が見られる。今年度は昨年度に続き新型コロナウイルスの影響により、外食卸などの販路の状況が厳しかったが、このような販路に直接販売している事業者では大きな影響があったものと推測される。



図表 63 取引先件数別決算

## (4) コスト構造

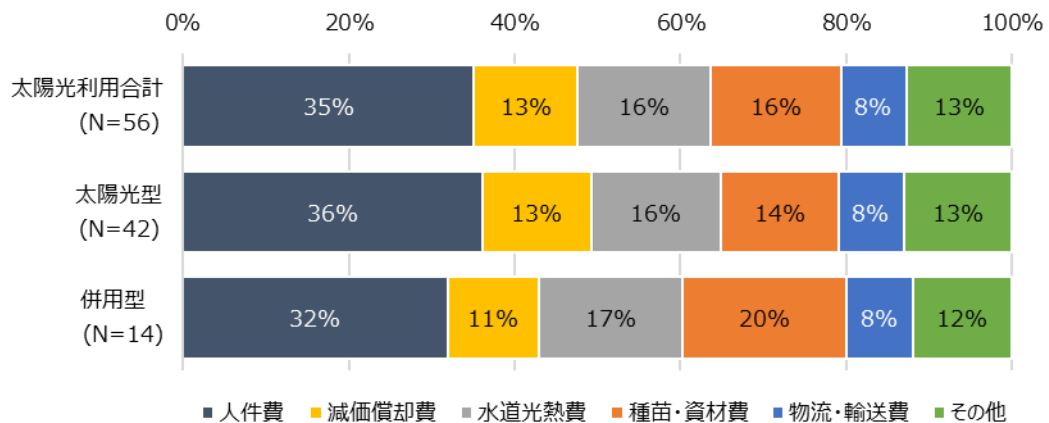
### ① 栽培形態別コスト比率<sup>7</sup>

収支要因の一つである費用面の分析として、事業者のコスト構造分析を行う。

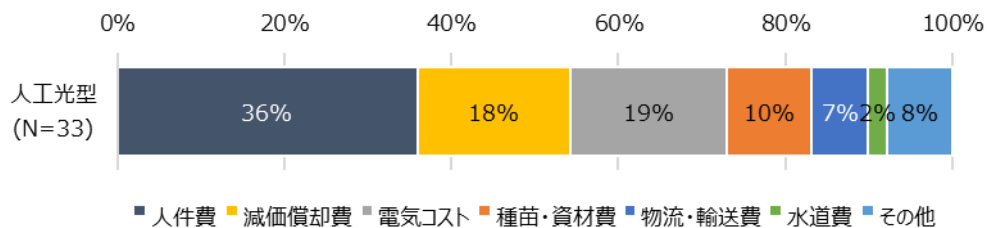
全体で最もコストの割合を占めているのは、人件費であり、栽培形態別に見ても、太陽光型、併用型、人工光型のいずれも約32~36%を人件費が占める。次いで、太陽光利用合計で見たときにコスト割合が高いのが水道光熱費（16%）である。

また、人工光型では、人件費に続き電気コスト（19%）と減価償却費（18%）の占める割合が大きい。人工光型における電気コストの内訳は、照明61%、空調28%、そしてその他11%となっている。

なお、「その他」の費目には、修繕費、技術開発費などが挙げられている。



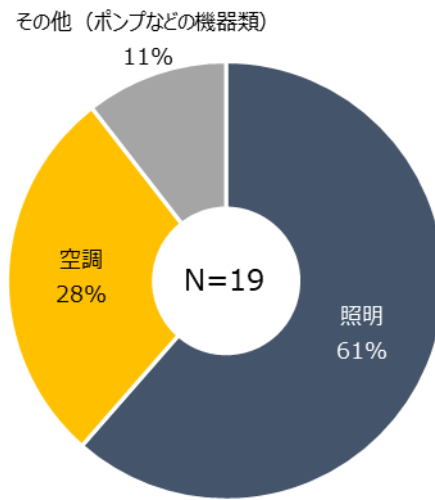
図表 64 栽培形態別コスト比率（太陽光光型・併用型）



図表 65 栽培形態別コスト比率（人工光型）

<sup>7</sup> 当項目における「コスト比率」は、調査票において全コストに占める各費用の割合に関する回答の平均値であり、実際の金額をもとに分析したものではない。



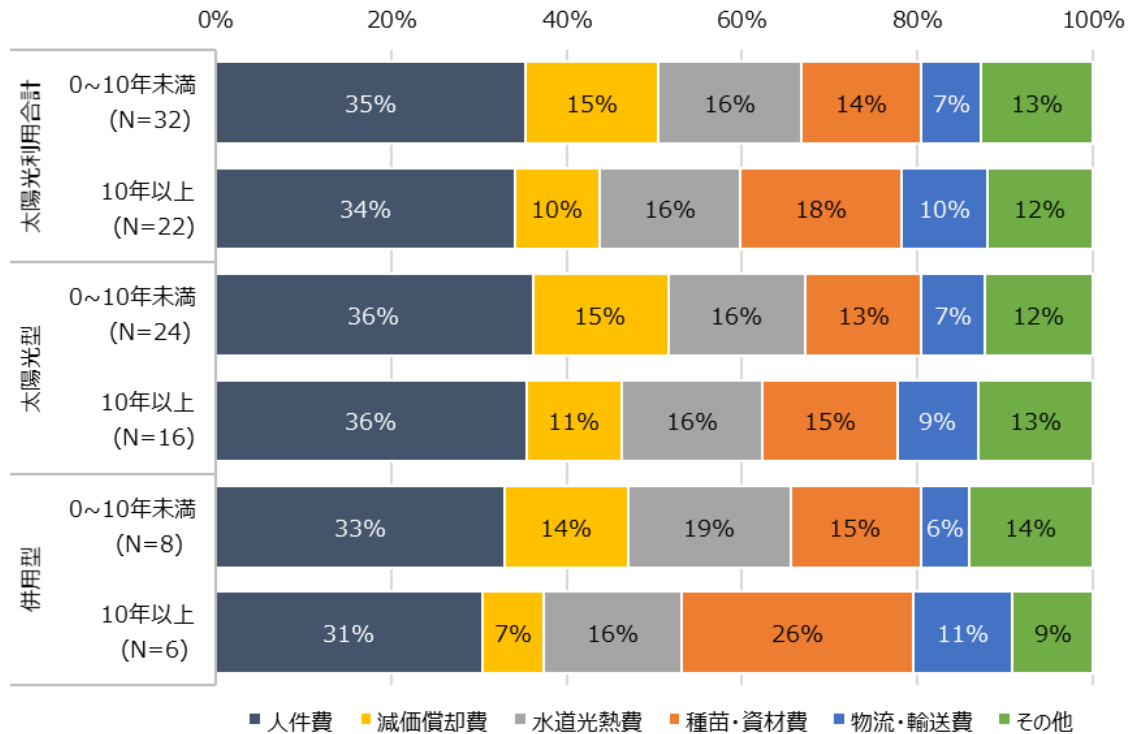


図表 66 電気コストの内訳 (人工光型)

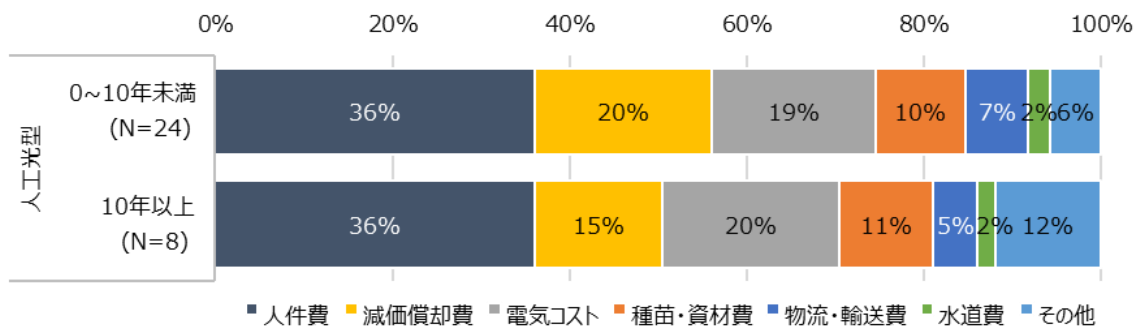
## ② 栽培年数別コスト比率

栽培年数別にコスト構造をみると、栽培年数が10年以上の事業者では、10年未満の事業者と比較して、減価償却費の割合が低下している。これは各栽培形態通じて同様である。施設及び各種設備の償却期間を終えたことで、費用負担が減少していることがわかる。

なお、その他のコストの内訳としては、保険料、地代・施設賃料、指導料などが挙げられている。



図表 67 栽培年数別コスト比率（太陽光型・併用型）



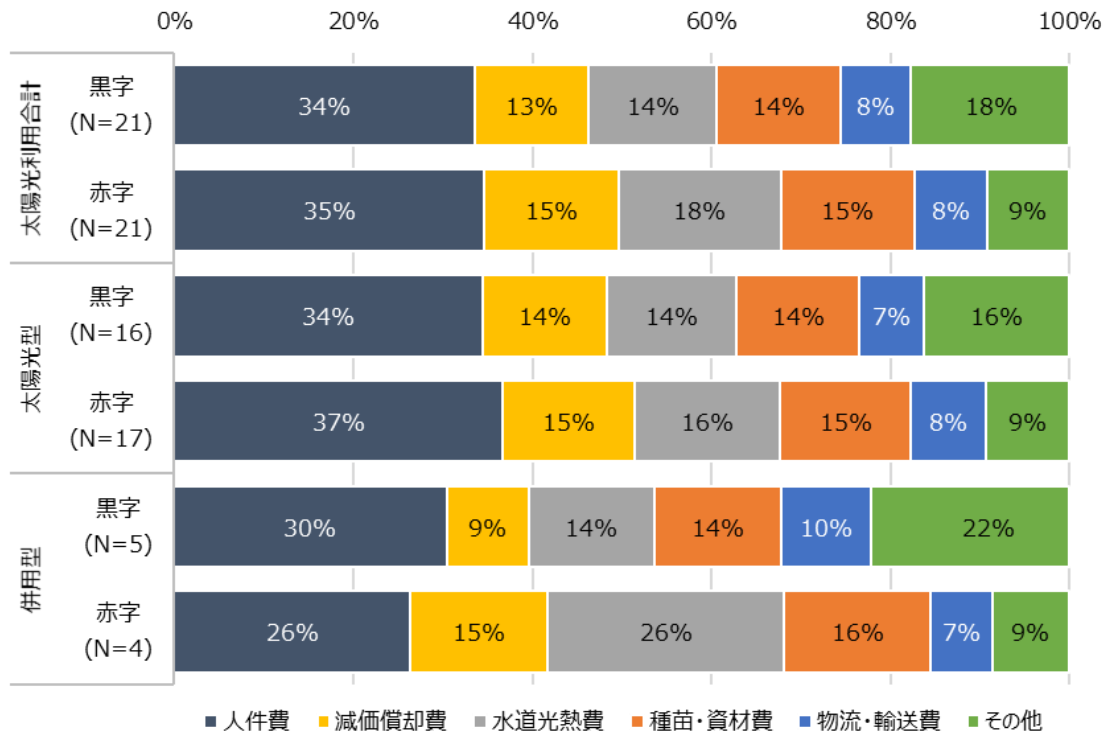
図表 68 栽培年数別コスト比率（人工光型）

### ③ 決算別コスト比率

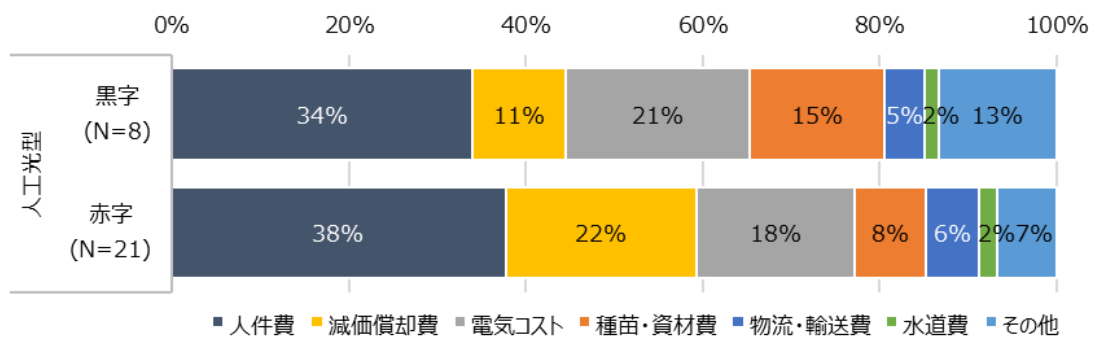
決算別にコスト構造を比較したものが下図である。黒字・赤字事業者間で、「その他」を除きコスト割合の差が大きいのは、減価償却費である。

また、黒字・赤字事業者間で大きな変化がないのは、物流・輸送費で、これらはどちらにも等しく負担になっていることがわかる。

黒字としている事業者の「その他」の内訳には、修繕や研究開発などの内訳が挙げられており、変動費のコストを削減した上で、栽培環境の向上を図っていることが推測される。



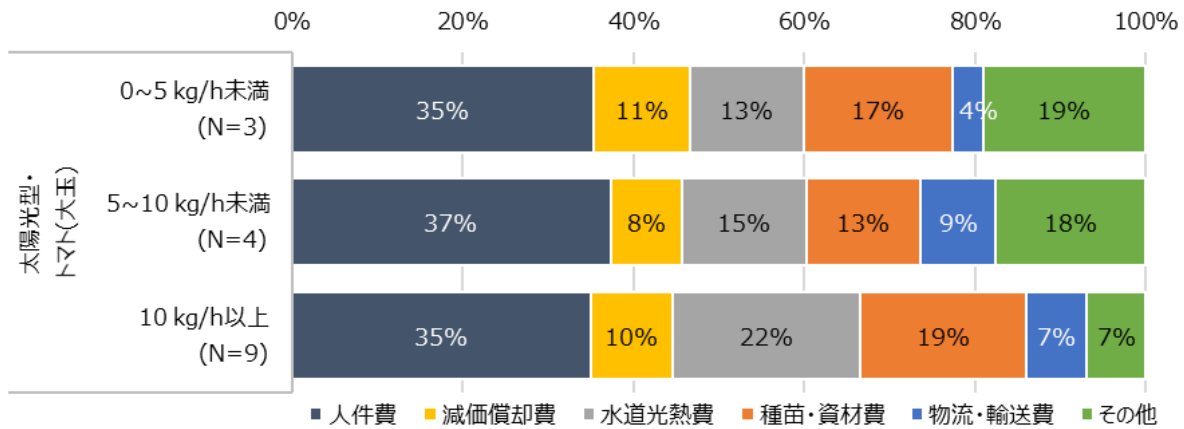
図表 69 決算別コスト比率（太陽光型・併用型）



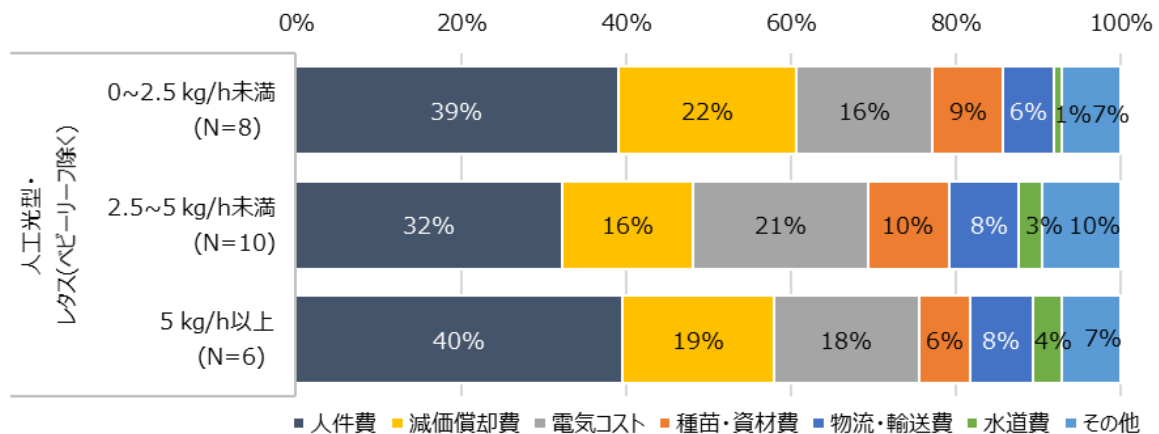
図表 70 決算別コスト比率（人工光型）

#### ④ 労働時間当たり収量別コスト比率

太陽光型のトマト栽培（大玉トマト）と人工光型のレタス類栽培（ベビーリーフを除く）について、労働生産性（労働時間 1 時間当たり収量）の水準に応じたコスト構造を示したのが下表である。時間当たり収量が増えるほど、人件費の割合が減る傾向がみえる。



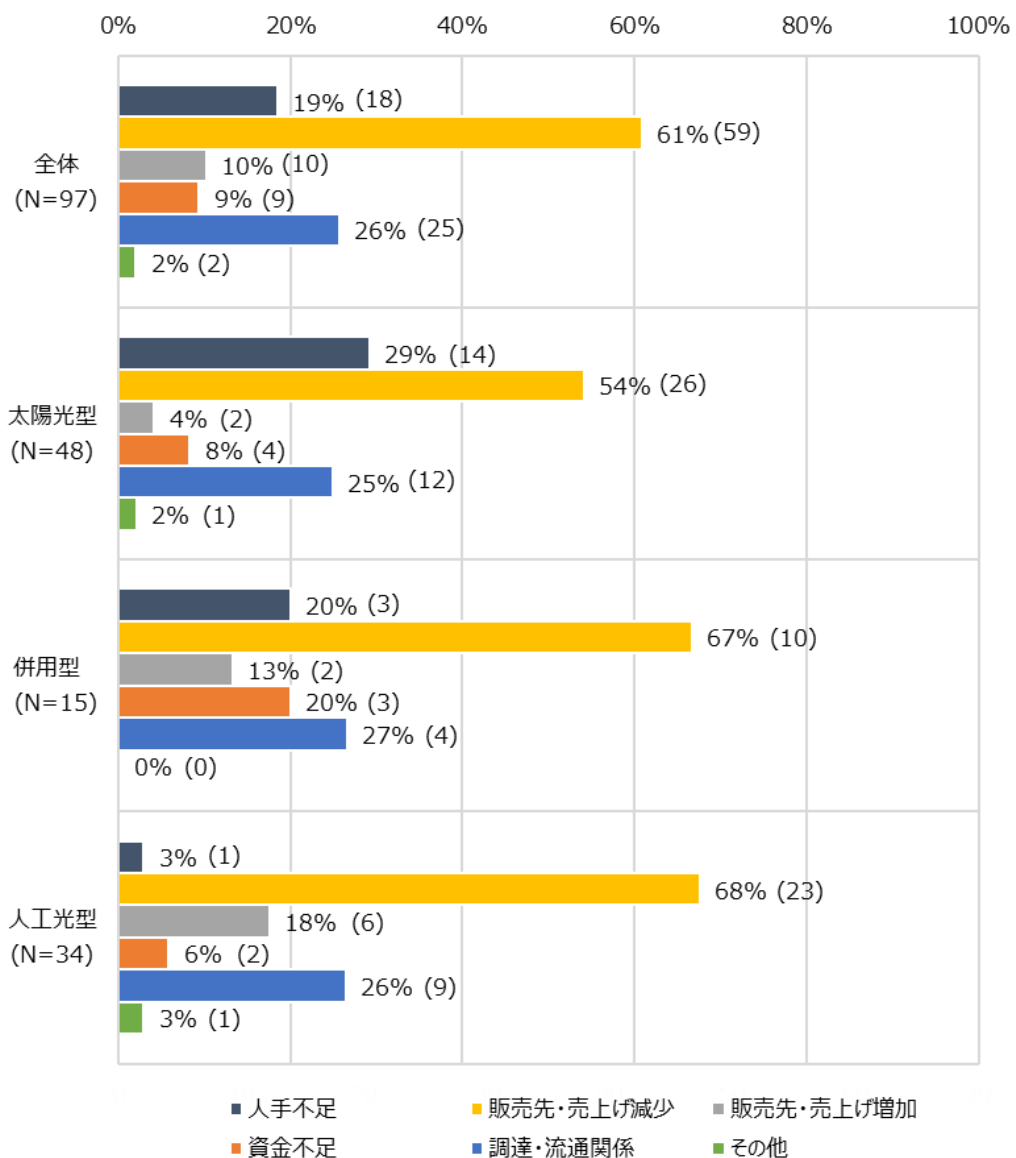
図表 71 労働生産性別コスト比率（太陽光型・トマト大玉）



図表 72 労働生産性別コスト比率（人工光型・レタス類（ベビーリーフを除く））

### (5) 新型コロナウイルス感染症拡大による影響および対策

新型コロナウイルス感染症拡大による影響について、販売先・売上げ減少が太陽光型で54%、併用型67%、そして人工光型が68%を占める。さらに、いずれの栽培形態においても、調達・流通関係への影響が25%以上となっている。また、特に太陽光型や併用型では人手不足を挙げた事業者がそれぞれ29%、20%を占めている。具体的には、資材・燃料・人件費などのコスト増加や、特にホテルや飲食店との取引の減少などの影響が多く挙げられ、小売店への販売拡大のほか、売先の新規開拓、加工事業をはじめとする新規事業の検討・実施により対策を講じた事例がみられる。また、衛生管理方法や基準を見直し対応したという回答もみられた。



図表 73 新型コロナウイルス感染症拡大による影響／それに対する対策

\* 複数回答を含む